

録され、県内観光への関心が高まっている。本市の平坦な地形を生かして、レンタル自転車による史跡めぐりを実施すべきである。観光客のニーズに合わせ、きめ細やかな施策で旅行者の増加を図るべきである。

A 現在、大村市観光コンベンション協会を中心に3台の電動アシスト付き自転車を貸し出している。旧城下町周辺の史跡は、ほとんど平坦な場所にあり、道路幅も狭いため、自転車でめぐるには格好の状況だと思っているので、電動アシスト付き自転車の増車も含め、調査研究したい。

旧浜屋ビル1階は どのような活用するのか

城 幸太郎 議員

Q 旧大村浜屋ビル改修に伴う1階9区画のテナント公募が行われ、応募は1社のみで、最小面積の1区画だけの入居になりそうである。応募が1社だけだった理由をどのように分析しているのか。また、今後1階の入居について、どのように対応していくのか。

A 旧大村浜屋ビルのテナントへの応募結果の分析については、入居者に内装工事を負担していた

だくなど募集内容のハードルが高かったのが一因ではないかと考えている。また、今後の対応については、全てのテナントが埋まるよう、条件を見直して、再募集を進めていきたいと考えている。



教育・文化・スポーツ

教科書選定について

中瀬 昭隆 議員

Q 来年度の中学校社会科の教科書が今までと同じものが採択されたことに失望を感じ得ない。歴史教育や歴史認識はとても重要である。自虐的な歴史観を将来も持ち続けてよいのか。教科書採択は、調査委員会、選定委員会、採択協議会で決定されるが、調査員の選定基準とどのような項目を調査するのか尋ねる。

A 調査員の選定基準については、教諭など教育に関し専門的知識を有する者の中から教科ごとに採択協議会の会長である教育長が任命している。また、調査項目については、採択候補の全ての教科書に関し学習指導要領の目標や内容を踏まえているかなど、教科ご

とに定められた観点項目について調査研究を行うことになっている。

給付型奨学金の活用を

伊川 京子 議員

Q 平成24年度に創設された給付型奨学金制度の活用が、これまで1名にとどまっております。制度が生かされていない。大学1年生の支給額は月額5万円であり、勉学の意欲がある学生を経済的に支援するこの制度を十分に活用してほしい。センター試験の成績や家庭の収入制限など条件の見直しを検討し、活用を促すべきではないか。

A 給付型奨学金については、よい制度をつくっているにも関わらず、応募者がいないことは残念である。採用の要件である成績や経済面については、早急に再検討する必要があると考えており、平成28年度には少し変更したいと考えている。



学力調査による現状と 3学期制への移行

朝長 英美 議員

Q 学力調査の本市の実態とその対策はどうか。また、2学期制と3学期制のテスト回数の違いが学力テストに及ぼす影響はどうか。また、2学期制が他市からの転校生や3学期制である高校進学時に及ぼす影響はどうか。また、退職教師などの学力向上のための協力体制はどうか。また、総合的に判断し、3学期制にすべきではないか。

A 学力調査の対策については、学力調査実施後、各学校において独自に採点を行い、子どもへの指導に生かすよう努めており、調査結果の分析をもとに、校内での共有を図り、授業改善につなげている。また、学期制の違いにより生じるテスト回数の違いが学力テストに及ぼす影響については、学校だけで学力向上は成り立つものではなく、家庭等における学習が相乗効果となり、学力は上がるものと考えており、学期制に関係なく学力向上に取り組んでいきたい。